

2020-2021

つながる 只見線







悠久の いとなみ

JR 只見線と並行してすすんでいる只見川の流域は昔から変わらないような悠久のいとなみを残し続けています。

本ページで紹介している写真は只見町・塩沢地区で撮影したものです。十島橋や鬼渡神社（十島ビューポイント）から眺めることができる蒲生岳や笠倉山などはいつ見ても素晴らしい姿です。蒲生岳は会津のマッターホルンとも称されますが、蒲生岳周辺はパノラマのような絶景が見られます。

本ページの写真は、2020年11月1日に撮影した秋の様子です。



遺志が つながる

只見町・塩沢地区は、幕末に活躍しラストサムライとも称される長岡藩士・河井継之助の「終焉の地」ですが、河井継之助記念館があります。ラストサムライが最後の見た風景として、河井継之助ファンでなくても彼の遺志に触れれば幕末ロマンに浸れるかもしれません。

河井継之助を有名にした小説「峠」の取材のため、作家・司馬遼太郎もかつてこの地を訪れています。



河井継之助は、怪我をしながら遠く長岡藩から険しい峠（八十里越）を越えて会津の地へ来たとされていますが、現在の只見町・浅草登山道ではその険しかった峠道を体験することもできます。狭い急斜面を上り下りすることは軽装備だとしても難儀します。

神秘につながる



只見川は上流から冷たい水が流れているため、常に川霧が発生しやすい地域です。霧が多いので、幻想的な風景を頻繁にみることができますが、とくに夏には水面に写し出された自分の姿に虹色の後光が見えるという非常に珍しい自然現象「ブロッケン現象」を体験することもできます。ブロッケン現象は高山や飛行機の中から稀にしか見られない貴重な現象だそうですが、只見町では平地でみることができます。

毎年7・8月、朝6時から8時の間に、川霧が出て尚且つ日光が射している条件がそろえば、このような神秘的な体験をすることができます。



光がつながる

只見川流域は水力発電施設が連なり、「ダム銀座」とも呼ばれます。豊かな水源からつくられ光を灯す電気は、関東等の都市部へ送られています。

発電所を見学することもできますが、金山町にある「東北電力奥会津水力館 みお里(り)」では、奥会津地域における電源（インフラ）の歴史や現状が分かりやすく展示されています。



想いが つながる



JR 只見駅から参道入口まで徒歩8分でいける只見町の三石神社は、山中にある三つの磐座（いわくら）を御神体としていますが、縁結びの岩にはたくさんの孔が開いていて、この孔に紙漉り（こより）や糸を通して結べば、縁が結ばれると言われています。奥会津地域周辺では唯一縁結びの御利益がある神社だそうです。

人がつながる

2011年7月にあった新潟・福島豪雨災害は、地域に甚大な被害を与え、いくつかの橋等も流失しました。そのため、災害から10年経てもJR会津川口駅とJR只見駅の間(約27.6km)は未だに不通です。

しかし、今や自動車が主な移動手段だとしても、鉄道は地域と地域の外を結びつける心理的な役割をもつことに住民が気づき、完全復旧を強く望みました。その望みが叶い、鉄道は再びつながろうとしています。復旧に至る運動や復旧を応援する人々、二次交通等を整備・支援して下さった方々にとっても精神的なつながりをもたらしたようです。

JR只見線は単なる交通機関にとどまらず、人と人、想いと想いがつながる重要な役割を果たしているのではないのでしょうか。



JR只見線・JR会津川口駅(2019年11月10日)



三島町の観光交流館からころんでは、ソーラーパネルで発電した電動アシスト自転車を貸し出していますが、有効な二次交通として活躍しています。

伝統がつながる

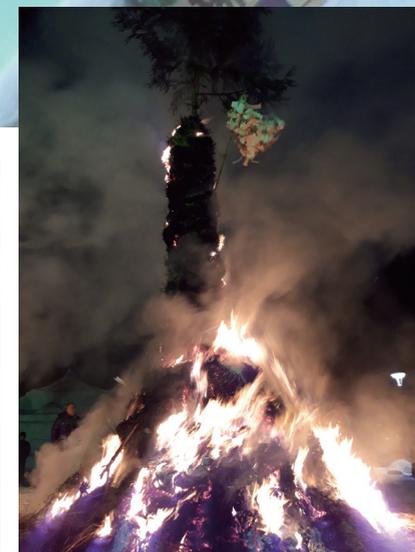
只見線沿線には伝統的な行事がおこなわれています。例えば、三島町の「ふるさと会津 工人まつり」では伝統工芸品の展示即売がおこなわれ、奥会津編み組細工（山ブドウ、ヒロロ、マタタビ細工）が有名です。また、沿線の各町村では毎年冬まつり（雪まつり）が開催されていますが、広く点在している行事を只見線沿線という線でつなげることは言うまでもありません。



三島町「ふるさと会津 工人まつり」(2018年6月)



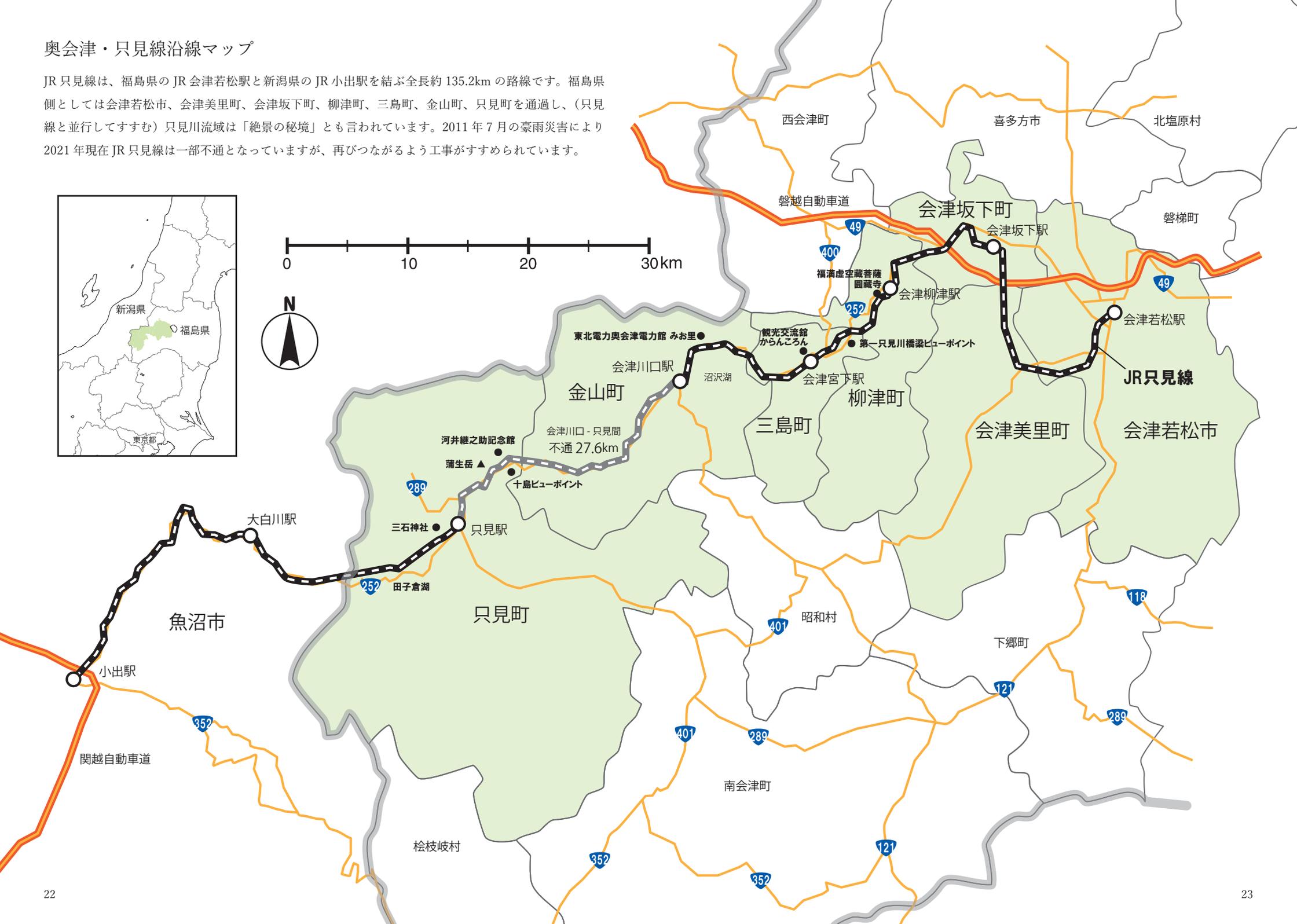
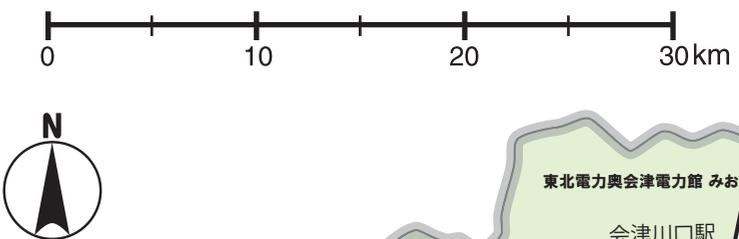
柳津町
福満虚空藏菩薩圓藏寺





奥会津・只見線沿線マップ

JR 只見線は、福島県の JR 会津若松駅と新潟県の JR 小出駅を結ぶ全長約 135.2km の路線です。福島県側としては会津若松市、会津美里町、会津坂下町、柳津町、三島町、金山町、只見町を通過し、(只見線と並行してすすむ) 只見川流域は「絶景の秘境」とも言われています。2011 年 7 月の豪雨災害により 2021 年現在 JR 只見線は一部不通となっていますが、再びつながるよう工事がすすめられています。





つながる只見線

編集・発行：会津大学短期大学部 高橋ゼミ

2021年2月

2020年度 会津大学競争的研究費による成果

本冊子は、奥会津・JR只見線沿線地域の魅力を伝えたり、資料として整理するため、これまでに学生等が調査した成果をビジュアルな素材で簡潔にまとめました。JR只見線は単なる交通機関にとどまらず、地域の象徴的存在で、それぞれの地域資源がつながる重要な役割も担っています。そのため本冊子のタイトルは「つながる只見線」としました。